

### 第33回「コロナ禍・所感」

コロナ感染者は、東京を筆頭に増え続け、深刻さを増しています。このような環境下、観光関連業者の方は、「売上げ確保」と「感染絶無」という二律背反的な難問を解決しなければならない局面にあります。国・県の指導に合わせ、町・商工会・観光協会・金融機関などと町民の皆さんが当事者意識を強く持って、この難局に対処していきましょう。「明けない夜」はないのです。必ずや人間の英知がワクチン・薬を開発するでしょう。

さて、話は大きく転換しますが、ある移住者の方の話を紹介します。この方は長年鎌倉に住み、会社をリタイアされた後にご夫婦で5年間移住先を探し、この松崎町を選んだ訳ですが、「このコロナ禍のとき、鎌倉に住んでいたと思うとゾッとす。海・山・川があり、空気はきれいで周りの人は非常に親切。本当にこの地に来て良かったとつくづく思う」と話されました。続けて、「移住者誘致をしていると思うが、会社をリタイアして間もない人にターゲットをしぼった方が良い。なぜなら彼らは長年培った『知恵』、『蓄え』、『時間』をたくさん持っている。彼らは町にとって役に立つでしょう」と話されました。私は、昔は良かったという単なる懐古主義者ではありません。そして、子ども教育は、田舎であっても英語、IT関連は必須です。都会人には、田舎暮らしは憧れだと思います。モノづくりである農業・漁業と一体となった観光、自給自足の生活は不況抵抗力が強く、懐かしさの中に明るい未来があると思います。